

## 電子メールを使った地球化学データ伝送システムの構築と運用

## Development and Operation of Data Transfer System of Seismo-Geochemical Data via E-Mail

# 角森 史昭 [1]

# Fumiaki Tsunomori[1]

[1] 東大院・理・地殻化学

[1] Lab. Earthquake Chem., Univ. Tokyo

われわれは、地震の発生の前後で起きる地殻中の化学的な変化のメカニズム解明が、地震予知の実現に重要であると考えている。兵庫県南部地震の前に見られたような地下水中のラドン濃度の上昇や塩化物イオンの濃度上昇は、非常に良い例である。ただし、これらの化学種の濃度測定は、さまざまな環境因子の影響をうけることがある。したがって、濃度変化が地震に関連したものであるかどうかを判定するためには、環境因子を同時に測定するだけでなく、多くの化学種の濃度変化にも同時に知る必要がある。

物質の濃度を多くの化学種について同時に調べることは、ガスクロマトグラフや質量分析や分光法などで実現できる。単一の化学物質の濃度の時系列ならば、スカラーの時系列データを扱うフォーマットと伝送方法を利用できる。しかし、クロマトグラムやスペクトルのようなベクトルデータをあつかうためには、新たに適切なフォーマットや伝送方法を準備する必要がある。

本報告では、地球化学計測によって得られるベクトルデータを安全に伝送するシステムについて議論し、運用例を紹介する。